

第2回 地域包括ケア研究会（入退院支援の取り組み）アンケート集計

（令和6年10月29日）

（27病院36名・36名回答）

1. 事例発表「おひとりさまはスタンダード?!」「生活再構築への取り組み～複雑化する退院支援～」を聞いて

発表者：岡山赤十字病院 医療社会事業課 辻部朋美 医療社会事業第1係長
倉敷リハビリテーション病院 総合相談・地域支援部 医療福祉相談室
医療ソーシャルワーカー 岡本好恵 副主任

a. 大変勉強になった	31名	c. どちらとも言えない	0名
b. 勉強になった	5名	d. 勉強にならなかった	0名

（ご意見・ご感想）

- ・事例を通して具体的に何をしたか、わかってよかった。
- ・自分の病院だけではなく、地域を超えて他の病院の苦勞が見えてよかった。
- ・独居高齢者が増加し退院支援が進まない事例もあるので勉強になった。
- ・急性期と回復期で立場は違うが、退院支援の困りごとを抱えているのが理解できた。
- ・退院支援について細かいことまで支援されていることがわかり、とても勉強になった。
- ・どの病院でも同様の問題があり、支援されていることがわかり、とても勉強になった。
- ・他院での退院支援の取り組み等が参考になった。今後の退院支援の参考にしていきたい。
- ・急性期病院と回復期リハ病院における退院支援や支援難渋のケースについて知ることができた。
- ・事例を通して急性期病院と回復期リハ病院、それぞれの病院の取り組み内容や課題が伝わり、とても勉強になった。
- ・急性期病院の役割として、色々なことをされていることを知ることができて、勉強になった。
- ・ソーシャルワーカーとしての悩み事がみんな同じであることに少し安心感を覚え、多職種とのチームワークが大切であることを再認識した。
- ・高齢化や身寄りなし、家族関係希薄などにより、ケース困難や退院支援に難渋することがあるが、各病院の取り組みが聞けてよかった。
- ・キーパーソンとひと言で言っても難しいと思うが、これからの業務に活かしたいと思った。また支援者MSWのメンタルについて、いい方法を教えていただいた。
- ・他病院の退院支援の流れについて知ることができて参考になった。自分にとってモチベーションにも繋がった。今後に生かせる部分は吸収していきたいと思った。
- ・急性期と回復期、どちらの病院でも、患者・家族の支援に大きな負担があると感じた。発表者の方々が大切にされていた視点を自分も忘れず、業務に携わりたいと思った。

- ・退院支援に難渋しているケースはみんな同じだと感じた。患者家族のACPについても考えることができた。
- ・MSWが大切に丁寧に取り組んでいることが伝わった。どの病院のMSWも同じことを精一杯行っていると思う。
- ・MSWがどのような業務をされているか、とても分かりやすく、病棟の看護師とも共有したいと思った。多職種協働をしたい。
- ・一人部署のため、困難ケースに心が引っかけなくても、同じ立場で吐き出せる人がおらず苦しいが、今日の繋がりを大切にしたい。
- ・急性期での事例は、その患者(人)を通して起きている現状で悩みも思いも同じだということがあった。この事例を通じて行政や自治体に動いてほしいし、起きてしまっただけで動くのは遅すぎると思う。
- ・急性期病院の早い回転の中でも、MSWがアセスメントしてしっかり関わる必要があるクライアントや、時間がかかるクライアントに対応されているのを知ることができてよかった。
- ・カンファレンスの持ち方など悩んでいたのが、倉敷リハビリテーション病院の発表はとても参考になった。スタッフの人員が少なく、理想的ではあるが、全ての患者にこれだけのカンファレンスが持てるのかというのが課題である。
- ・急性期と回復期、それぞれの課題や特徴を踏まえた事例でとても勉強になった。どのような過程でも患者本人や家族との思いを大切に、その人らしい人生を支える取り組みが大切だと感じた。
- ・他院の取り組みを知ることができて、とても参考になった。MSWの労力は計り知れず、頭が下がった。
- ・急性期病院と回復期リハ病院のMSWの方が頑張られていることがよくわかった。今後ますます独居や身寄りのない方への支援が問題になってくると思われるが、参考にしたいと思う。
- ・急性期でありながら自宅訪問や身の回りの物を取りに行くなど、外へ出て支援をしていることに驚き、回復期リハでは生活の場(住居)まで探すことにもびっくりした。改めてMSWは何でも屋(よい意味で)でオールマイティーだと思った。
- ・普段から転院や入所の相談を受ける経験が多かったため、急性期のソーシャルワーカーの素性をゼロから解き明かしていく苦悩を感じた。身寄りのわからない方が増える中でも支援の根幹は変わらず、本人らしさや本人の視点に立った関わりが重要だと思った。
- ・身寄りが無い等、退院支援において問題が複雑化している現状はどこの病院でも同じだと思った。病院の機能によって支援の方法は様々であるが、患者の思いを聞くというMSWの視点は同じであり、より大切にしようと思った。

- ・退院支援をする中で、患者一人ひとりに寄り添っているのに感動した。急性期でも回復期でも今後このようなケースが増えていくと考えるが、正解はないので大変だと思った。行政も形ばかりで融通が利かず、もう少し市民に寄り添ってほしい。
- ・多様化する社会の中で、それぞれの病院でも支援のあり方を変化させながら、様々なケースに取り組まれていることを理解した。ソーシャルワーカーのメンタルケアについて最後に触れられたが、これまであまり意識して来なかったと気付かされた。今後の部署運営について改めて考えていこうと思う。
- ・キーパーソンがいない、家族と連絡がつかない、入院費滞納等、様々な問題があるとMSWだけの判断では入院可否はできず、病院との相談が必要である。急性期の病院では患者がどんな人か分からず、いちから情報収集して次に繋げる大変さを学んだ。当院は身寄りのない方の受け入れは課題であり、今後はMSWとして動いていく必要があると思った。
- ・岡山赤十字病院の事例で産後に訪問看護導入になっていたが、医療保険での対応だったのか、訪問看護介入の目的が何だったかを知りたいと思った。一方、倉敷リハビリテーション病院の事例では、ソーシャルワーカーがどこまで介入し、どこまでの業務を行うのか、誰かがしなくては前に進まないという所はとても共感することができた。グレーだからこそソーシャルワーカーが対応できるということもあるのかなと思った。また、高速道路を使つての訪問は、病院のバックアップがあるからこそできているのではと思った。
- ・MSWがどこまで関わるのかと悩みながらも、誰かが支援しないとという気持ちで働かれていて、同じMSWとしてとても刺激になった。ありがとうございました。
- ・回復期リハビリ病院での支援は本当に大変だと共感した。自分たちも一緒に頑張ろうと元気がもらえる発表だった。発表者のお二人はお疲れ様でした。ありがとうございました。
- ・急性期と回復期リハ、それぞれの退院支援について特徴的な事例と共に知ることができてとても勉強になった。日々の業務がACP的側面を持っていること、職場内で心理的安全性が確保されていることがいかに大切なことかを、自身のことに置き換えて考えても、とても分かりやすい内容だった。ありがとうございました。

2. グループ意見交換へ参加して（35名回答）

a. 大変勉強になった	33名	c. どちらとも言えない	0名
b. 勉強になった	2名	d. 勉強にならなかった	0名

(ご意見・ご感想)

【Aグループ】

- ・各病院の視点や意見を聞くことができて大変参考になった。
- ・MSWの関わりや地域ならではの関わりの仕方など参考になった。
- ・意見交換はグループで多職種の方や業務内容が異なるため、参加できてよかった。
- ・機能の違う病院のMSWの支援の仕方や意見を聞いて、共感したり学びが多かった。
- ・病院内の役割や地域との連携、行政を巻き込む等、たくさんアドバイスをいただくことができた。
- ・退院支援の期間は年々長期化しているのはわかるが、病院としてどこまで支援したらよいのかを明文化できたらいいと思った。
- ・自分が悩んでいた内容について助言をいただけてよかった。それ以上に他院の取り組み方が聞けて参考になりそうなので、当院に持ち帰り活かしていこうと思う。グループにMSWが多かったので、そちら目線の話が聞けて勉強になった。
- ・様々な病院の課題や悩み、取り組み方など大変勉強になった。似たような課題を抱えている病院もあり、やり方など参考にさせていただきたい。

【Bグループ】

- ・皆さんの意見がとてもありがたかった。また参加させていただきたいと思う。
- ・ひとり暮らし世帯や身寄りのない人への対応について情報共有ができた。
- ・様々な地域から集まり、いろいろな課題が聞けて有意義だった。また参加したい。
- ・いろいろな意見が聞けてとても参考になった。同じ悩みが共有でき、明日からの力になった。
- ・いろいろな機能を持つ病院とグループワークができて、機能が違っていても抱えている問題や課題は似ていると思った。グループワークの時間が足りないくらいだった。
- ・事前に募集されていた「意見交換したい内容」について、様々な病棟や職種から多くの意見が出ており、とても勉強になった。もっと時間が欲しかったのと、もっとたくさんの皆さんのお話が聞きたかった。とても有意義な時間でした。ありがとうございました。

【Cグループ】

- ・他院がどのように退院支援をしているかや、日々同じようなモヤモヤや課題を抱えている中で、どのように解決・対応しているかを聞くことができて参考になった。
- ・様々な取り組みを伺うことができ、参考に取り入れることも考えることができた。
- ・グループワークが活発に行われ、解決策はなかなか見つけることはできないが、「他院でも思っていることは一緒」という情報共有ができた。皆さんが頑張っていると思うと、自分も頑張れそうだ。

- ・地域包括ケア病棟の60日の入院期間の中でどれだけの関わりができるか、看護師もMSWも悩みは共通していると感じた。他院の看護師やMSWが頑張っておられることを知ることができて励みになった。
- ・解決にまで至らなくても、同じような悩みでケースに取り組んでいる方々の意見を聞くことで、今後の支援のヒントになり、また明日から頑張ろうという活力をいただいた。今回得た気づきを自院に持ち帰り実践できればと思う。

【Dグループ】

- ・とても楽しく情報共有ができた。
- ・MSWでなく多職種から見た退院支援の実情を知ることができた。
- ・皆さん同じ問題を抱えて日々頑張っておられ、大変励みになった。
- ・日々悩んでいることが共有でき、当院だけが抱えている課題でないことを知った。多職種協働で退院支援を行うことが目標であるため、本日知り得たことを現場で生かしていきたいと思う。
- ・経験年数や職種が様々な方から貴重な意見が聞けて楽しく学ぶことができた。在宅と病院の間にいるソーシャルワーカーとして、在宅関係者のアセスメントや情報収集を行うこと、キャラクターを捉えることと同時に、病院は特別な空間（24h安全、人生ライフステージの中でも異色）であることをしっかり思いながら支援に繋がりたいと思った。
- ・いろいろな職種が集まり意見が出たが、看護師の立場から思ったのは、ソーシャルワーカーの方は患者家族の相談もあれば、看護師の話などいろいろな場面で大変だと思った。ストレスを抱えている方がいたのでメンタルケアも必要だと思った。また情報共有の難しさも感じた。
- ・ソーシャルワーカーが抱えている問題が各病院共通しているものが多く実感できた。職員の個々の意識の問題でもあるが、マニュアル化することもスムーズな支援には必要なのではと感じた。カルテなどももっと有効的に使用していけたらよいと思う。

【Eグループ】

- ・他院での退院支援の流れや患者支援の方法など聞くことができ、参考になった。
- ・同じ悩みを共有できたのでよかったと思う。施設ごとの取り組みが聞けたので勉強になった。
- ・医師とのやり取りや普段支援で心掛けていることを知ることができた。面談の基本も知ることができた。
- ・他院のカンファレンスの時期や、家族、キーパーソン、他職種との連携の仕方、巻き込み方が勉強になった。
- ・困っていることは共通であったし、取り組もうとしていることも共通していることが多かった。ディスカッションや意見交換することで気づきも大きいと思う。

- ・当院は恵まれている環境だと感じた。自分の職種からの視点だけでなく、他部署の視点もしっかり考慮するように努めたい。
- ・他院の入退院での取り組みや頑張っておられることが聞けてよかった。どの病院でも苦勞しながら業務されているとわかり、これからも頑張っていこうと思った。
- ・他院の方のそれぞれの苦勞や頑張っておられるよい所をたくさん伺うことができた。地域包括ケア病棟の60日という限られた期限の中での支援について、いろいろ工夫されている点や取り組みを伺うことができ、参考にさせていただきたい。

3. 地域包括ケア研究会で今後、取り上げてほしい内容

- ・次回も開催していただきたい。
- ・今のところ特に思い浮かばないが、また参加させていただきたい。
- ・どのような話でも伺いたい。何度同じものでもよい。
- ・入退院支援の取り組みについて。
 - ・医療と介護の連携について。
- ・連携について。
 - ・ACPについて取り上げてほしい。
- ・退院支援のジレンマ。
 - ・自宅訪問のメンバーについて。
- ・身元保証人問題について。
 - ・コストの算定について。
- ・介護保険の変更申請の取り組み。
 - ・診療報酬改定後の取り組み方について。
- ・行政やサービス等、詳しく勉強し直したい。
- ・「入退院支援の取り組み」のテーマは今後も続けてほしい。
- ・今回メンタルヘルスの話を聞き、次回は是非フォローの方法等が知りたい。
- ・入院通則にも入った身体拘束廃止の取り組みについて、先進的に行っている各病院の紹介があると参考になるのではないか。
- ・高齢者の方が多いので、退院支援の困難さは続いていくと思う。キーパーソンがいない事例や家族でも見てくれない事例もあるので、行政の取り組みも知りたい。

【職 種】

MSW	16
看護師	11
社会福祉士	3
支援相談員	2
SW	2
医療相談員	1
リハビリ	1

【所属施設種別】

病院	34
老健	2